

## 第一回 千代田区立九段中等教育学校入学等あり方検討会 議事要旨

日 時：令和5年4月25日(火)午前10時～10時55分

会 場：千代田区役所本庁舎8階 第3委員会室

出席者：[委員長]大森委員(教育担当部長)

[副委員長]堀越委員(区立中学校長会会長、麴町中学校長)

[委 員]宇田委員(大妻女子大学教職総合支援センター所長、教授)

野中委員(東京学芸大学特別教授)

浅岡委員(区立小学校長会会長、昌平小学校長)

野村委員(九段中等教育学校長)

山本委員(指導課長)

大塚委員(学務課長)

[事務局]高田 学務課学務係長

石川 学務課学務係主事

大塚 九段中等教育学校経営企画室長

### ◇会議の概要

#### 次第1 開会、教育長挨拶、委員委嘱

- ・委員長より開会の宣言
- ・教育長より挨拶
- ・委員委嘱について、宇田委員、野中委員に委嘱状の机上配付を説明  
(内部委員の委嘱状交付は省略)
- ・資料1-3検討会設置要綱第5条の規定に基づき、委員長は教育担当部長をもって充てることを確認

#### 次第2 委員紹介

- ・各委員及び事務局から挨拶

#### 次第3 副委員長の選任

- ・資料1-3検討会設置要綱第5条の規定に基づき、委員長が副委員長を指名し堀越委員が副委員長として選出された。

#### 次第4 検討会設置趣旨(検討事項及びスケジュール等)の確認

- ・事務局より、資料2-1、2-2に基づき、検討会設置趣旨、男女別定員を取り巻く社会的情勢及びスケジュールについて説明(質疑、意見なし)

## 次第5 九段中等教育学校の現況確認

・事務局より、資料3-1、3-2及び資料4に基づき、九段中等教育学校の沿革、教育の特徴、過去の受検状況等について説明

### 【質疑応答】

委員長：事務局の説明について、野村委員から補足はありますか。

野村委員：ご説明いただいた通りで、来年度は第一東京市立中学校から数えると、創立100周年になる。令和8年度には、中等教育になって20年となる伝統ある学校である。それから、九段自立プランというのが一つ大きな特徴で、キャリア教育に特化している。今、新しい学習指導要領で重視されている探究や理数教育に力を入れていくような形で、九段自立プランの見直しをするために、今年度は新たな委員会を設けて、新しい九段の教育プログラムを考えるということで動き出している。

副委員長：例えば、令和5年度の受検倍率、男子は2.38倍で合格者40人になっているが、合格後に私立に流れてしまったり、補欠の子が繰り上がるとか、そういった実際の状況が気になるので教えていただければと思う。

事務局：(九段中等教育学校の)合格発表とだいたい同じ時期に私立の受検もあり、(九段中等教育学校に)合格したけれども私立に行くという生徒もいるので、順次繰上げを行っている。その数は、5人とか10人ぐらいである。入学後は、中には体調を崩したり、あるいは学校に来られなくなったりなどで、転学する生徒もいるが、後期に入る際に新たに生徒を募集することはない。

浅岡委員：資料4について、A区分(区民枠)では男女の人数があまり変わらないが、B区分(都民枠)では圧倒的に女子の受検者数が多い。それだけ男子の場合は選択肢が多いからなのか、あるいは女子の場合はどうなのかとか、そのような分析を九段中等のほうでされたことはあるのか。

事務局：分析というほどではないが、以前より女子からの人気は高いという感じはある。例えば、B区分の競争倍率は、女子が6倍ぐらいあるが、中等教育学校ができたときは、最初に白鷗が1校あり、その次に九段ができたので、B区分の初期の倍率は11倍とか10倍ぐらいあった。それから段々と倍率が落ちてきたというよりも、落ち着いてきたという感じではないかと思っている。やはり6人に1人しか受からないとなると、塾のほうも受検を控えさせるというようなこともよく聞いている。また、就学支援金の充実により、私立の授業料が高いという障壁もかなり緩和されてきているので、それで私立のほうに流れている面もあると思う。新聞等によると、中等の倍率が下がってきているのは、九段だけではなく、関東近県の学校も同じような状況にあるようである。

野村委員：入学者に対するアンケートを今年度とっている。その分析結果を待っているとところだが、B区分の方は、A区分がある分、どうしても合格者の人数が少ないので、ほかの都立の中高一貫校に比べると厳しいのかと。人数が少ない分、選択している傾向が少ないのかと。都立の中高一貫校は、全て見ていくと、どちらかという女子のほうが多い傾向にあると思う。

委員長：そのアンケートの分析結果も、のちのち情報提供していただければと思う。

#### 次第6 東京都教育庁へのヒアリング内容報告

・事務局より、資料5に基づき、東京都教育庁(入学選抜担当)へ今後の都の動向についてヒアリングした内容について説明

##### 【質疑応答】

山本委員：1番の「今後に向けた動き」のところで確認させていただきたい。4点目について、令和4年度が第1段階、令和5年度が第2段階、そして、撤廃となれば第3段階で最終段階という流れになると思うが、一番下の、第1段階、第2段階での結果、「男女合同定員の場合と変わらない結果が出ている」というのは、どういった意味と捉えればよいのか。

事務局：トータルで男女合同定員で合格者を出した場合と、緩和措置を10%、20%で行った場合、それぞれ男子の合格者が減って、女子の合格者が増える。そういった同じような結果が出ているということである。

副委員長：2番の「入学者選抜における方針を出すタイミング」で、2点目に、中学3年生、中学校それぞれが影響を受けると書いてある。中学校への影響としては、生徒の男女比に関連して設備的な問題、授業の問題、カリキュラムの問題など、様々なことについて環境整備をしていかないといけない。

そこについては、中学校長会に持ち帰りたい。我々も、今後、2年後、3年後に向けて、何が課題になるのかをセットで考えていきたい。環境整備の問題は教育委員会に協力いただく形で進めることが望ましい。

大塚委員：私から、学務課長として事務局の立場で申し上げる。今、副委員長が話されたような課題が浮き彫りになってくると、私どもも認識している。これは、教育委員会事務局と中学校長会、学校現場とも綿密に連携して、そうした課題認識を共有化して検討を進めていかなければいけないと考えている。

委員長：全体を通して、何かご質問ご意見はあるか。

宇田委員：私は、以前、東京都教育委員会の都立高等学校入学者選抜検討委員会(入選検)で2年間、責任者をしてきた。

3番の補足になるが、前々から、男女別定員なのは全国でも東京都だけだという批判があった。そのことに対しては、他県と違って私立学校が多いというの

が一つの理由。もう一つは、この緩和措置をすることによって、何とか凌いでいた。ところが、医学部入試の問題があって、おかしいじゃないかという形でいろいろな意見があり、マスコミにも出た。そういった中で検討し、もうこれは東京都でも始めるしかないということで報告書をまとめた。

それで私は退職したのだが、その退職した4月に、やはり大きく新聞で取り上げられて、マスコミからの問い合わせもあった。私はもう現職ではないので、回答は控えたが、それだけもう避けては通れない形の流れになっていた。東京都も、最近、今後そのような形にするというふうに、教育委員会が出したところだと思う。ただ、そのときに、教育委員の中から、「とっても喜ばしいことだ。だけれども、ちょっと時間がかかり過ぎただろう」という意見があった。今回の千代田区でも、色々な課題があると思うが、やはりスピード感を大切にして、結論をある程度早めに出す形にしたほうがよいと思う。

それから、4番の2点目について、「段階的ではなく一気に撤廃するという考え方もある」とあるが、これは段階ではなく一気に全校やっていくのではないかとと思う。区立と都立の違いがあるにせよ、都立の中等教育学校の動きも見ながら、やはり先んずることはあっても遅れてはいけないという気がする。

野中委員：私も同感である。今の社会の流れから言って、この流れを止めることはできないだろうと思う。そういう中で、スピード感というものが、この検討会では一番大事なことなのではないかと思っている。

都立が最終的にどのようなようになるか分からないが、私も、これは一斉に行われるものだというふうに思っている。となれば、それに先んじて行く。

今日も中学校長会会長(堀越副委員長)からお話があったが、おそらく千代田区固有の問題というのも出てくると思う。むしろ、早くその問題をどうしていくのかという方向性を考えていく、それが必要なのではないかと思う。

委員長：今回は、関東近県の中等教育学校の状況もご提示させていただいて、男女別定員枠のあり方について議論をさせていただければと考えている。

#### 次第7 その他連絡事項(次回検討会の日程調整等)

- ・次回の会議は、5月22日または23日の午前10時から開催する。日程調整が済み次第、事務局より連絡する。

#### 次第8 閉会

- ・委員長より閉会の宣言

以上